

聞き取り調査と初期外部被曝量のまとめ

飯舘村初期被曝評価プロジェクトチーム

私たち飯舘村初期被曝評価プロジェクトチームは、昨年7月に JR 福島駅前に事務所を開設し、10月末までの約4カ月にわたって飯舘村の皆さんの聞き取り調査をさせていただきました。聞き取りの内容は、2011年3月11日に地震・津波が発生してから、原発事故にともなう放射能汚染により計画的避難区域に指定されて村外に避難されるまで、飯舘村の皆さんが何処におられてどのように行動されたかについてでした。そうした一人々々の情報と、これまで私たちが行ってきた放射能汚染調査結果に基づく外部被曝推定方法とを組み合わせ、2011年7月31日までの飯舘村の皆さんの外部被曝量の見積もりをしました。詳細については別途報告書を作成しますが、ここでは概要を報告させていただきます。

◇ 聞き取りの地区別分布と年齢別分布

表1は、昨年10月31日までにに行った聞き取り調査の地区別の分布で、図1に飯舘村の各地区の位置を示しておきます。被曝評価のために有効な情報が得られた聞き取り調査の数は496件でした。表1から分かるように、飯舘村の旧世帯数の約30%に相当しています。多いところでは前田地区の49%、少ないところでは臼石地区の17%と、地区により聞き取り割合に変動はありますが、ほぼ万遍なく調査が行えたと思っています。

表1. 聞き取り調査の行政区別分布

行政区	戸数	聞き取り数	割合
草野	221	64	29.0%
深谷	102	20	19.6%
伊丹沢	100	26	26.0%
関沢	77	27	35.1%
小宮	128	51	39.8%
八木沢・芦原	40	12	30.0%
大倉	34	12	35.3%
佐須	63	21	33.3%
宮内	72	25	34.7%
飯樋町	117	27	23.1%
前田・八和木	90	28	31.1%
大久保・外内	68	13	19.1%
上飯樋	124	30	24.2%
比曾	88	22	25.0%
長泥	68	28	41.2%
蕨平	49	16	32.7%
関根・松塚	43	19	44.2%
臼石	88	15	17.0%
前田	53	26	49.1%
二枚橋・須萱	60	14	23.3%
合計	1,685	496	29.4%



図1. 飯舘村の20行政区

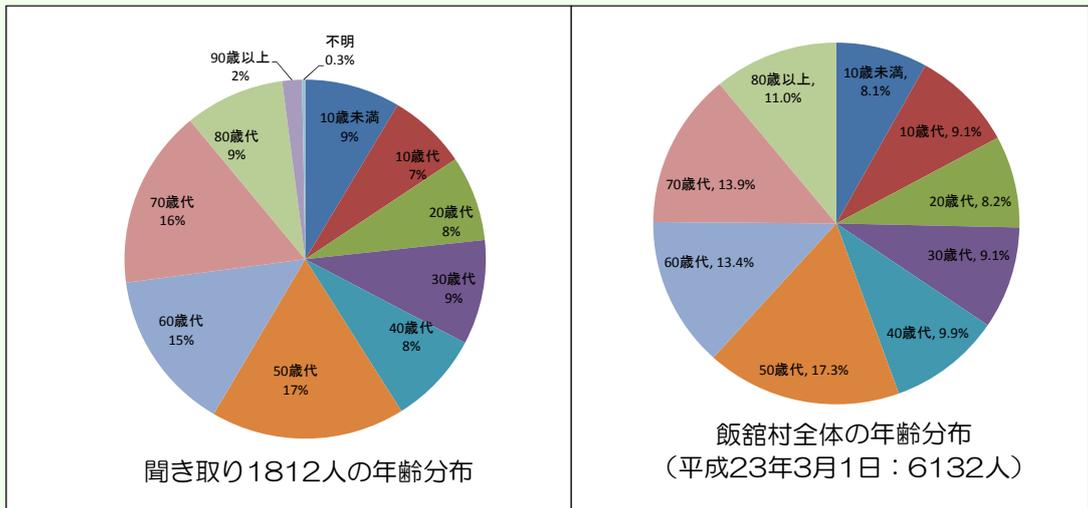


図2. 聞き取り対象者と飯舘村全体の年齢分布の比較.

図2は、聞き取りで情報が得られた1812人の方々の年齢分布と飯舘村全体の年齢分布の比較です。両者の分布はよく似ており、聞き取り結果に年齢分布の偏りはないと言えるでしょう。

◇ 初期外部被曝量の分布

聞き取り調査からは、それぞれの方が毎日どこにおられたのかという情報が得られました。そうした居所情報と、これまでの私たちの放射能汚染調査結果（パンフレット「私たちのこれまでの飯舘村放射能汚染調査」（2013年7月）をご参照下さい）を組み合わせ、飯舘村に滞在されていた時の日々の外部被曝量を計算し、放射能汚染が生じた2011年3月15日から7月31までの積算値を『初期外部被曝量』としました。図3は、情報が得られた1812人の方々の初期被曝量の分布です。平均値は7.0ミリシーベルトで、最大値は60歳代男性の23.5ミリシーベルトでした。ただし、この値には飯舘村以外の場所におられた際に受けられた被曝は含まれていません。飯舘村の方々3102人を対象とする県民健康管理調査の値は平均3.6ミリシーベルトなので、私たちの見積もりはその約2倍に相当しています。

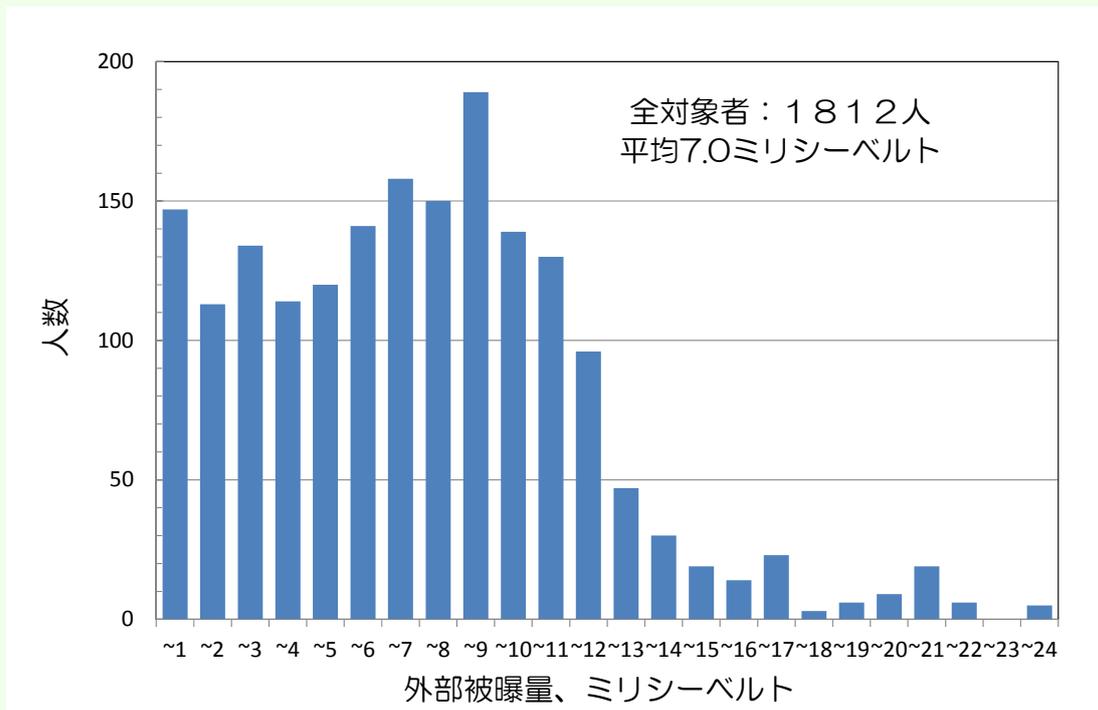


図3. 聞き取り対象者1812人の初期被曝量の分布.

◇ 初期外部被曝量の年齢別分布

図4は、年齢グループ別の初期外部被曝量分布です。10歳未満の平均被曝量が3.8ミリシーベルトと小さいのは、子ども達が早めに避難したことを反映しています。最大は60歳代の8.5ミリシーベルトですが、飼っていた牛の処分など仕事の関係で避難の遅くなった方が多くありました。

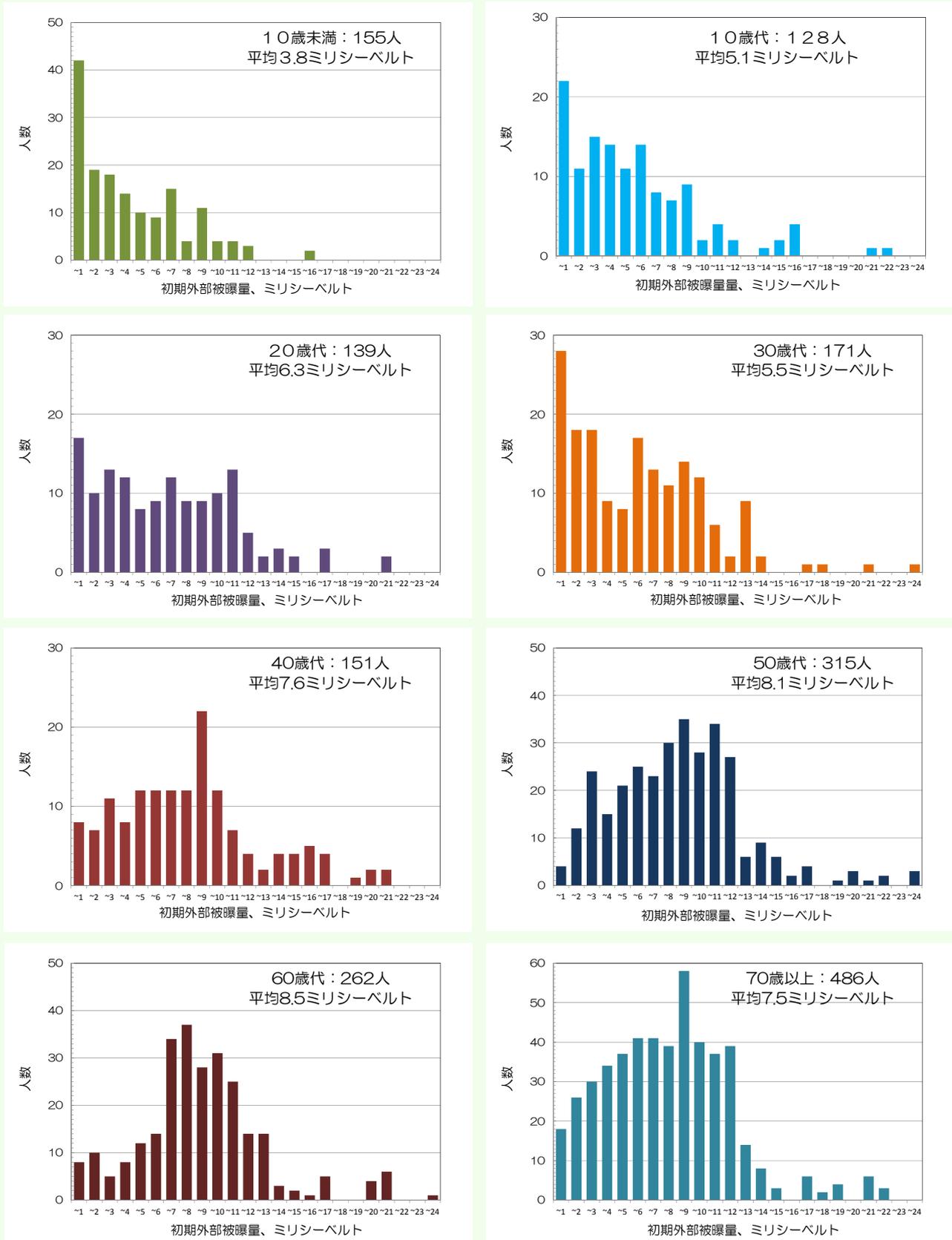


図4. 年齢グループ別の初期外部被曝量分布

◇ 地区別の初期外部被曝量

表2は、行政区別の初期外部被曝量の平均値です。予想通り、汚染の大きい長泥、比叢、蕨平地区での被曝が大きく、比較的汚染の小さい二枚橋・須萱、大倉地区での被曝が小さくなっています。

表2. 行政区別の平均初期被曝量

行政区	人数	平均Cs137汚染、Bq/m ²	平均初期被曝量、ミリシーベルト	行政区	人数	平均Cs137汚染、Bq/m ²	平均初期被曝量、ミリシーベルト
草野	203	68.2万	5.8	前田・八和木	103	80.2万	7.1
深谷	71	78.9万	6.3	大久保・外内	65	73.6万	6.0
伊丹沢	96	73.7万	8.0	上飯樋	117	75.5万	6.2
関沢	77	86.7万	7.8	比叢	72	108.7万	11.0
小宮	182	93.4万	8.4	長泥	104	178.9万	12.5
八木沢・芦原	45	54.6万	5.8	蕨平	53	132.1万	9.3
大倉	50	34.3万	3.5	関根・松塚	83	76.3万	6.3
佐須	76	49.1万	4.6	白石	58	74.6万	8.1
宮内	101	66.1万	5.7	前田	120	68.5万	5.5
飯樋町	83	73.0万	5.8	二枚橋・須萱	48	39.6	3.5

◇ 飯館村に残っていた方の割合の推移

聞き取りを進める中で、原発事故が起きた後いち早く避難された方が、いったん飯館村に戻られて、再び避難されたケースが多いのに気がつきました。その様子をグラフにしたものが図5です。3月21日を境目に多くの方が村に戻っておられます。戻られた理由としては、①避難先での生活が様々な意味で困難になった、②当局主催の放射能講演会で安心した、③村内の職場から帰村を要請された、などがありました。



◇ まとめ

福島原発事故が起きてから計画的避難区域に指定され避難されるまでの飯館村の方々の初期被曝量を見積もるため、当時の行動や居所についての聞き取り調査を実施し、村民の約3割にあたる1812人の情報を得ることができました。その情報を基に2011年7月31日までの外部被曝量を見積もると、平均で7.0ミリシーベルト、最大で23.5ミリシーベルトという結果が得られました。こうした被曝量の意味については、添付の解説資料『飯館村の初期外部被曝をどう考えるか』をご参照願います。(なお、今回の被曝量の見積りは外部被曝についてのみで、内部被曝については今後の検討課題です。)